

## かわさき区の宝物シート

宝物No.	にしんせいふんのさいろ
26-1	<b>日清製粉のサイロ</b>



エリア	田島地区	シーズン	通年
	白石・大川	日時	

目的	<input type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input checked="" type="checkbox"/> その他

宝物定義	<input checked="" type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input checked="" type="checkbox"/> 港めぐり
	<input type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input type="checkbox"/> 人物

所在地	川崎区大川町3-1
問い合わせ	日清サイロ(株)鶴見事業所
TEL	044-366-5321
FAX	044-355-7181
E-mail	
URL	<a href="http://www.nisshin.com/entertainment/factory/">http://www.nisshin.com/entertainment/factory/</a> (日清製粉グループHP/バーチャル工場見学)
交通	JR川崎駅よりバス「日清製粉前」下車徒歩3分



### 基礎情報

- 日清製粉(株)鶴見工場において、大正15年(1926)の操業当初から使われ続けているサイロ(加工前の小麦を貯蔵しておく施設)。
- 操業当時、一般に製粉工場は内陸の小麦産地に建造されるのが普通であったが、日清製粉では外国産小麦を扱うことと海運による国際化を視野に入れていたことから日本で初めて臨海部に工場を建設した。

### 由来・エピソード

■「TSURUMI MILL」の名で海外にも知られる日清製粉鶴見工場(川崎市川崎区大川町)で大正15(1926)年の創業当初から使われているサイロ(貯蔵庫)。当時の製粉工場は内陸の小麦産地に建てられるのが普通だったが、同工場は海運による国際化を視野に入れ、外国産小麦を扱うため、日本で最初の湾岸部に建設された。その後、大型サイロや最新鋭の製粉ラインなどが増設され、今や世界最大規模の工場に成長した。

日清製粉の創業は、明治33(1900)年に正田貞一郎氏らにより群馬県館林町に設立された「館林製粉株式会社」であり、明治41(1908)年に「日清製粉株式会社」を合併し、社名をこれに改めた。大正15(1926)年に鶴見工場を建設し、同社の代表工場として小麦粉輸出の道をひらいた。第二次世界大戦時の空襲により工場の大半を焼失したが、ただちに復興に着手し、昭和24(1949)年には全ての工場の復旧・増設をほぼ完了し、戦後の食糧増産の要請に応えた。昭和32(1957)年には、西独・ミアグ社製の最新式ニューマチック方式製粉設備を導入し、日本における製粉設備の近代化の先駆けとなった。

### 補足・その他

- 本サイロ施設は非公開。
- 平成13年(2001)7月、創業100周年を機に、日清製粉(株)、日清フーズ(株)など製粉・食品・飼料・医薬・ペットフードの全事業を分社化し、新しい日清製粉グループ体制が発足した。日清サイロ(株)は日清製粉(株)の関連会社としてサイロ事業を担当。穀物の安定供給、穀物物流の合理化を担っている。

### 関連シート

